

このところの松枯れ被害拡大は 猛暑のせい?

ここ数年、猛暑の夏が続いています。暑い夏の後には、「猛暑のため松枯れ被害が拡大」というようなことがよく言われます。

松くい虫による松枯れは、病原体の線虫とそれを運ぶカミキリムシによって引き起こされます。暑い夏には、線虫やカミキリムシの活動、繁殖が活発になります。また、松枯れは、木の中で水の流れが悪くなって起こる病気なので、夏の暑さによる土壌の乾燥は発症を促進します。これらのことから、「夏が暑いとマツ枯れが広がりやすい」というのは事実と言えます。

しかし、夏の暑さはあくまで被害拡大の誘因に過ぎません。火事に例えるなら、被害拡大の「火種」となる松枯れ被害木があり、その周囲に「燃料」になり得る健全な松の木がたくさんあったので、被害が拡大したのです。実際に、猛暑続きのこの数年でも松枯れ被害量が増えなかった地域は少なからず存在します。

被害が拡大する中でも守るべき松林があるのなら、まずは感染源となる松枯れ被害木の駆除を徹底することが大切です。そして将来的な被害拡大の可能性をつぶすには、樹種転換などにより周辺の松林を計画的に減らしていくことが有効です。



松枯れ激害地では放置された前年以前の被害木(赤丸)がよく見つかります。

ご関心のある方は、森林総合研究所東北支所
(TEL:019-641-2150)へお問合せ下さい。